

行田市未来会議(第3回 市内活動団体) 開催結果

対象者 市内活動団体 18 名 ※2 グループに分かれて意見交換を実施

(A グループ)

【参加者】行田市 PTA 連合会 6 名、行田青年会議所 3 名

(B グループ)

【参加者】農業青年会議所 3 名、行田商工会議所青年部 5 名、行田市体育協会 1 名

日時 令和6年3月19日(火)19時00分～20時10分

場所 産業文化会館 2 階 第 2 会議室

意見1 行田の良いところ

(A グループ)PTA 連合会・青年会議所からの主な意見
・災害に強い(少ない)ということは行田市の強みである。
・歴史資源が身近にあって触れられることは良いことだが、市民は慣れてしまっている。
(B グループ)農業青年会議所・商工会議所青年部・体育協会からの主な意見
・歴史、文化遺産が豊富にあることが魅力であり、子どもたちに誇りを持ってもらうことが大切
・公共施設等は十分整っている。今後、どのようにマネジメントしていくかが重要
・核家族化が進んでいる中で地域の交流がまだ残っているのが強みである。
・農産物の大きな消費圏域である東京に近いことや、土地が平らで水が豊富にあること
・行田は野菜よりも米麦を作るのに適した土地が多くを占め、安定的に出荷できる環境にある。

意見2 行田の課題

(A グループ)PTA 連合会・青年会議所からの主な意見
・子育て世代が遊べる公園や広場が少ない。
・古墳公園や古代蓮の里など大きい公園はいいが、地域にある小さい公園への投資が少ない(遊具が少ない)。
・歴史資源が豊富だが使い方が上手でない。
・市の様々な施策について、勝手にやっている印象がある。周知が不足しているのでは。
(B グループ)農業青年会議所・商工会議所青年部・体育協会からの主な意見
・働く場所がなければ転出超過となる。既存の工業団地の拡張等はできないか。
・市内に子どもが少ない。働く人が増えれば必然的に子どもも増えると思う。
・障がい者の働く場所がまだまだ不足している。働く場所を整備しなければ実現できない。
・地元の農産物を販売できる施設が不足している。道の駅おかべでは秋にトウモロコシがたくさん消費され、吉見では苺が盛んである。
・市外に比べて飲食店が少なく、働く人にとってお洒落で美味しい飲食店が増えるとよい。
・高校が市内に1校しかないまちは周辺市で行田だけである。
・学校再編に際してかなり時間を無駄にした。その間、複式学級で学校生活を送るなど犠牲になった子どもがたくさんおり、その責任は行政にあると思う。
・JR 行田駅から総合病院付近までの南大通り沿いに飲食店が少なく活気がない。
・後継者がいない小規模の農地が増えている。耕作放棄地の要因になっているのではないかと思う。
・農作業は袋詰めなどの単純作業が多く、少しだけでもいいので手伝ってもらいたいケースが多くある。

意見3 望ましい将来像

(Aグループ)PTA 連合会・青年会議所からの主な意見
・単に「いい街をつくる」では分からない。どこに向かって走るのか、反対派から批判はあっても明確にしてほしい。
・女性が働きやすいまちが良い。
・独自で面白い教育ができるまちを目指すべき。現状は市立小中学校と高校、大学が分断されている。
・ものづくり大学を活かして、行田で教育を受ければエンジニアになれる、などといった切り口も良いのでは。
・楽しいまちであれば外から人を呼び込める。楽しいとはお金を稼げること。
(Bグループ)農業青年会議所・商工会議所青年部・体育協会からの主な意見
・65歳以上でも若くて働ける人はたくさんいるので力を借りるべき。技術や知識、経験があり体力もまだ余っている高齢者が活躍できるようにしたほうがよい。
・教育環境を充実させていく必要がある。市内では柳幼稚園で英語や体操を充実させているようだが、そうした取組を充実させていくことはよい。
・2034年度までに市内小中学校20校→義務教育学校3校にする学校再編計画に限らず、決めたことを最後までやり遂げる覚悟をもって、行政としてこれからも取り組んでもらいたい。
・やり遂げることは大事だが一気には進めることはできない。モデル事業でもいいので、市民に協力をお願いする部分はきちんとお願いし、行政主導で結果を出してもらいたい。
・行田で育った子どもたちが市外に出ても、いずれまた行田に戻ってきてほしい。
・交通の便が悪いなどいろんな課題があるが、それを払拭するぐらい市民が誇らしく、楽しく、このまちに住んでよかったと思えるようにしてほしい。
・全てを行政だけ解決しようとするのではなく、細かい部分は市内の団体に依頼をするなどの協力関係を構築してもらいたい。そうしたことを継続してもらいたい。
・後継者がいない農地を今後どのようにしたらよいか、ますます考えていかなければならない時期になってきている。農業がやりやすい環境を構築してもらいたい。

意見4 施策や事業の提案

(Aグループ)PTA 連合会・青年会議所からの主な意見
・入札の際に市内業者を優先してほしい
・企業誘致でも子育て支援でも一点集中の戦略が必要
・コロナ禍を経てテレワークも一定程度続いている。そうした層を狙った施策はどうか
・観光、インバウンドで行田市を訪れてもらうことによって定住につながられるのでは
・一人ひとりの稼ぐ力、生産性向上に取り組む企業に対する補助があればよい
・ものづくり大学と連携した先端農業(スマート農業)はアピールになるのでは
・廃校を農業学校にする
・農業の担い手が減っているので、その仲介が必要
・企業誘致は何より重要である。そこに一点集中でお金をつぎ込むべき
・見沼元入公園は、せっかく風車などがあるのに今のままではもったいないと思う
・青地で開発できないのであれば、逆に大規模ファームや農園などが良い

・男性の育児休暇がなかなか定着しないので、取得補助などがあれば良い
(B グループ)農業青年会議所・商工会議所青年部・体育協会からの主な意見
・工業団地の整備時に文化財が発見された際、製造業などの場合はその発掘費用を当該業者に求めている。それが倉庫業以外の業種が進出しにくい要因となっているのではないかと思う。
・シルバー人材センターだけでは不足している。若者向け支援(子どもの見守り・学習支援など)を充実させ、65歳以上の方が活躍できる場を設けてほしい。
・もはや高齢者という言葉自体があまり相応しくない時代になっている。
・市の発注工事について提出書類が多すぎる。真に必要な書類であるかどうかを判断してもらいたい。
・足袋蔵などを修繕する機会が少ないため、左官職人などの技術承継ができていない。
・農業関連にも DX を積極的に取り入れ、ランニングコストの削減を図る支援を推進すべきである。
・スマート農業の推進を図るため、大規模化の取組みを図るべきである。
・野菜の水耕栽培などが考えられるが、それには行政からの支援が必要不可欠である。

以上